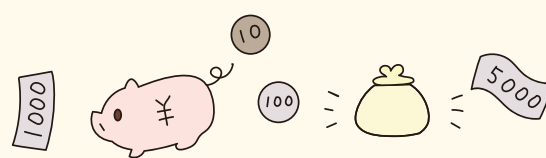


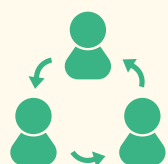
02 草加市を取り巻く環境



令和6年度当初予算では、事業の優先順位を慎重に検討し、財源を確保しました。
今後も進展する少子高齢化や人口減少により、財政状況がさらに厳しくなっていくことが予想されます。

課題1 社会保障経費等の増加

高齢化の進展により社会保障経費の増加や、少子化対策による支出が増加傾向にあります。



課題2 施設の老朽化

本市の公共施設は、建設後30年以上の建物が全体の64%を占めており、改修には多額のコストが必要です。



課題3 維持コスト増加

光熱費の高騰や人件費の増加など、公共サービスの維持に必要なコストが上昇しています。



"このまちを将来世代へと引き継げるように 03 新年度を草加の未来を切り拓くスタートの年に"



草加市長
山川 百合子



市の貯金を取り崩し編成した令和6年度予算

令和6年度の一般会計当初予算では財政調整基金(市の貯金)からの繰入額が過去最大の約56億円となりました。

この繰入により、令和6年度当初予算編成段階での財政調整基金の見込み残高は、実質的に、ゼロになりました。また、公共施設の整備に必要な資金を積み立てている公共施設整備基金についても一般会計にほぼ全額を繰り入れて、どうか当初予算を編成しました。

構造改革の断行と公民連携の推進

今回の予算編成を通じて私が痛感したことは、今後ますます進展する少子高齢化や人口減少を考慮すると、これまでの考え方の延長で市政運営を継続することは困難であり、抜本的に市政運営のこれまでの在り方を見直し、構造改革を断行しなければ、この財政危機を打開することは難しいということです。

そこで、令和7年度の予算編成を見据え、持続可能な財政運営を取り戻すため、事業の改善や廃止を含めた検討を外部人材とともに実施する、「事業総点検」を行い、歳入確保、歳出削減の両面から予算の確保を進め、新たなチャレンジ

への足掛かりとなる取組を進めていかなければならないと考えています。

また、民間活力を積極的に市政運営に取り入れるため、新たに公民連携推進室を設置し、民間事業者の創意工夫や資金、ノウハウ等を最大限に活用し、行政課題の解決や市民サービスの向上、地域の活性化を図ることにより、最大の効果を生み出すための公民連携を推進します。

未来を切り拓く3つの基本的な考え方

本市の財政状況や今後取り組むべき課題を踏まえ、「だれもが幸せなまち 草加」の実現と草加の今を支え、未来を切り拓くため、新年度の市政運営は、次の3つの基本的な考え方に基づいて進めます。

1つ目は、「市民一人ひとりを取り残さない」取組です。

誰一人取り残さない持続可能なまちづくりの観点から、多様化、複雑化する市民ニーズに対応し、市民生活の向上に向けた取組を推進するとともに、未来を担う子どもたちを始め、高齢者、障がいのある方、だれもが生き生きと幸せを感じながら暮らせるよう、市民の皆様に寄り添った包摂的な施策を進めてまいります。

2つ目は、「子どもたち一人ひとりを大切にす

る」取組です。

全ての子どもが、本市の未来を創る大切な主人公です。「こどもまんなか」社会の実現に向け、子どもの人格を尊重し、家庭や地域において、子どもが大切に育てられ、子育ての喜びが実感できるよう、子育て、子育て支援の充実を図ります。

私は、今後、構造改革を推進する中で生み出される財源により、未来を切り拓く施策に投資をしていきたいと考えています。子育てしやすい環境の整備や未来を担う子どもたちへの投資により、本市の魅力と活力の向上を図り、まちの価値を高め、少子高齢化や人口減少社会においても、子育て世代に選ばれ、住み続けたいと思えるまちを目指します。

3つ目は、「市民一人ひとりの命と身体、財産を守る」取組です。

頻発化・激甚化する災害への対応や消防・救急体制を強化するため、草加消防署を新たに建設、移転し、自治体の基本的な使命である、市民の皆様暮らしを守る取組を推進します。

また、地域の防犯力の強化を図るとともに、市民の皆様が安心して利用できるよう公共施設の適正な維持管理に努め、安全で安心なまちづくりを進めます。